



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第三六九号〕

穀雨こくう

四月二十日

忌鋏山ゆくわやま

伊勢神宮の取材が再開され、久しぶりに伊勢市楠部町の神宮神田へ向いました。毎年四月初めに執り行われる神田下種祭の取材のためです。

神田下種祭は、秋の神嘗祭かんなめさいをはじめ伊勢神宮の祭典にお供えする稲の種籾を神田に蒔くお祭りです。この種籾は昨秋に神田で収穫された稲の籾から選んだもので、神宮ではとくに「忌種ゆだね」と呼びます。朝九時から始まった祭典では、神田に設けられた四枚の苗代なわしろに二人の奉仕員によって「忌種」がていねいに手蒔きされました。苗代に種籾を蒔くことは「種蒔たねまき」「種下したねおろ」として春の季語にもなっていますが、今は苗代に代わる育苗箱への播種はしゆがほとんどですので、「種蒔」を目の当たりにするのは珍しいことなのです。

私は、四月初めの神田下種祭を幾度となく取材していますが、いつもこの時期特有の天候の不安定さを感じます。雨に降られたり、強風にあおられたり、今年はとても寒い日となりました。また、桜の季節にあたるため、神田周辺の桜も楽しみです。かつては隣接する四郷小学校の桜数本が満開でしたが、今年は神田の南に広がる忌鋏山ゆくわやまの山桜が見頃になっていました。神田下種祭では神職たちはまずこの山に入山し、聖なるという意味の「忌鋏」を作るのが慣わしです。そのため忌鋏山といます。私たちは入山できませんので、じっと待っていると、白い花に赤い葉をつける山桜、真っ白な花に緑の葉をつけるのは大島桜でしょう。忌鋏山にぼつぼつと咲く桜に気づきました。「山笑う」という季語がぴったりです。

二十四節気は、穀雨へ。神田の苗代に蒔いた種籾も芽を出し、すくすくと育っていることでしょう。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○『おかげ横丁 端午の節句』

5月5日は、「端午の節句」です。おかげ横丁では、男子の健やかな成長や立身出世を願い、鯉のぼりを立て、古きよき日本の伝統文化を大切に、「端午の節句」をお祝いします。

と き／4月29日(金・祝)～5月5日(木・祝) 10:00～17:00 (催しによって異なる)

ところ／おかげ横丁一帯

● 端午の節句市

節句飾りや邪気を祓い運氣をあげる縁起物の独楽、けん玉などが並びます。また、独楽職人による実演やけん玉の絵付けもご覧いただけます。

日 時／4月29日(金・祝)～5月5日(木・祝) 10:00～17:00

場 所／特設屋台

● ときわまんさく差し上げます

「ときわまんさく」を皆様に大切に育てていただくこと、約200株の苗を無料配布いたします。「ときわまんさく」は、伊勢神宮宮域林をはじめ、熊本県の小袋山(しょうたいさん)、静岡県湖西市神座地区の3か所だけに自生する貴重な樹木です。

と き／5月4日(水・祝) 10:00～なくなり次第終了

ところ／伊勢路栽苑

● 子ども太鼓

5月5日の「こどもの日」にちなみ、元気いっぱい子ども太鼓を披露します。

と き／5月5日(木・祝) 11:00～伊勢古市翔龍会、12:30～和太鼓響座いなせ組

ところ／おかげ横丁「太鼓櫓」

お問い合わせ／おかげ横丁総合案内「おみやげや」電話0596-23-8838

※新型コロナウイルス感染拡大予防のため、内容の一部または全体を中止する場合があります。

五十鈴塾

○『楽しい俳句』

わずか17文字にいろいろなことを詠みこむ俳句。

筆記用具さえあればいつでもどこでも楽しめる手軽な趣味。

難しいことをいえば貴族社会で楽しまれていた連歌から始まり、俳諧となり、芭蕉が芸術にまで高めた究極の短詩です。

これを生み出したのが日本人であることは世界に誇るべきことです。

日本語のリズムは知らず知らずに5・7・5になっているといわれます。つまり誰もが俳句を作る下地は持っているのです。

いまや世界の人々が作る俳句、一度ぜひ作ってみてください。石井先生がわかりやすくノウハウを教えてください。

と き／4月27日(水) 10:00～12:00

講 師／石井 いさお(煌星俳句会主宰)

参加費／一般 2,100円 会員 1,600円

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

※新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止となる可能性があります。

五十鈴茶屋

○『節気菓子』

やまぶき

山吹

山吹が鮮やかな黄色の花をつける季節です。

日本原産で、万葉集にも詠まれるほど古くから親しまれています。

美しく咲く姿を、白餡を包んだ著積饅頭に仕立てました。

しんめ

神馬

神宮の神馬といえば、もとは皇室ゆかりの御料馬。

毎月、1日、11日、21日の三度、参道を通り正宮前でお参りします。

御紋入りの衣をまとい、厳かに進む神馬の出立ちを真っ白な道明寺とこし餡で表しました。

みずも

水藻

五十鈴川の岸边から川面へ向け目をこらすと、日差しに照らされてきらきらと水藻が揺らめく様子が見えます。

その光景を葛寒天と羊羹を使い、透き通るように表現しました。